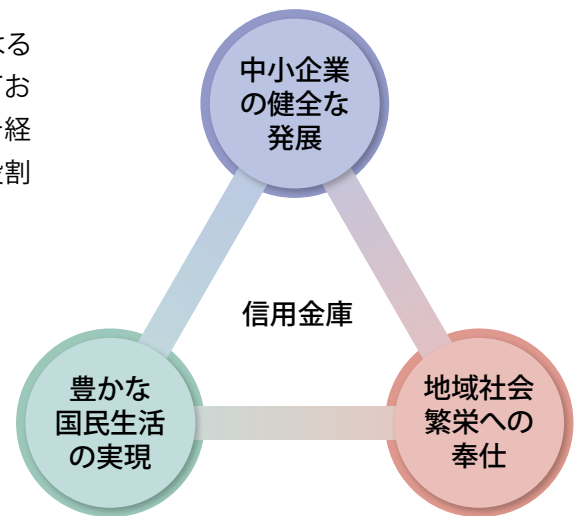


信用金庫ビジョン

信用金庫は、中小企業や地域住民のための協同組織による地域金融機関です。協同組織は、相互扶助を基本理念としており、会員や利用者ならびに地域のニーズにお応えすることを経営の基本にしています。信用金庫は、その社会的使命・役割の達成に向けて、3つのビジョンを掲げています。

信用金庫3つのビジョン



信用金庫法第1条(目的)

この法律は、国民大衆のために金融の円滑を図り、その貯蓄の増強に資するため、協同組織による信用金庫の制度を確立し、金融業務の公共性にかんがみ、その監督の適正を期するとともに信用の維持と預金者等の保護に資することを目的とする。

経営方針

基本方針

- ◎郷土の繁栄に寄与しましょう。
- ◎顧客に愛される金庫にしましょう。
- ◎与えられた仕事に誇りを持ち、内容の堅実な金庫にしましょう。

事業の概況

事業方針

平成30年度は、新長期経営計画『「きたしん共創力」発揮3か年計画～地域と共に未来へ歩み続ける信用金庫を目指して～』の初年度として、①支援力・営業力の深化×進化、②経営力・内部態勢の深化×進化、③人材力・組織力の深化×進化、④業界総合力の深化×進化の4項目について、計画の達成に向けて各々具体策を推進いたしました。

業績

預金は飲食業、鉱業、物品賃貸業等で減少しましたが、個人、医療・福祉業、不動産業、その他サービス、建設業等で増加し、期末残高は1,258億円と前期比10億円、0.84%増加しました。

期中平残についても1,278億円と前期比20億円、1.59%増加しました。

貸出金は、地方公共団体、医療・福祉業、宿泊業、情報通信業等で減少しましたが、不動産業、金融業、個人、建設業、その他サービス業、卸・小売業等で増加し、期末残高は635億円と前期比29億円、4.91%増加しました。

期中平残についても607億円と前期比32億円、5.37%増加しました。

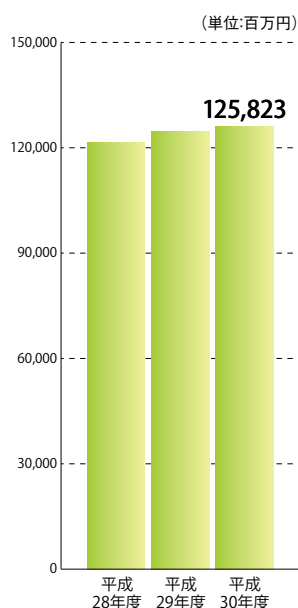
収支では、経常利益293百万円と前期比170百万円減少し、税引前当期純利益261百万円と前期比202百万円減少、当期純利益168百万円と前期比165百万円減少しました。

自己資本比率は、貸出金が増加しましたが、有価証券の減少によりリスクアセットが減少し10.04%と前期に比べ0.08ポイント上昇しました。

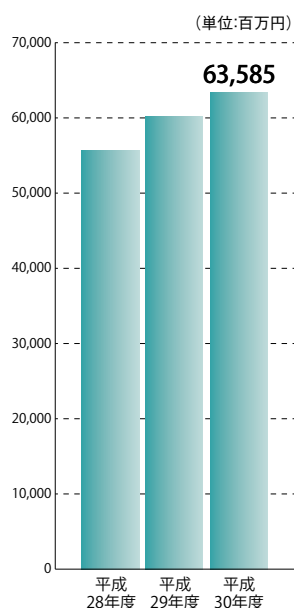
金融再生法開示債権は1,069百万円と前期比156百万円増加し、不良債権比率1.67%と前期比0.17%上昇しました。

リスク管理債権は1,062百万円、前期比156百万円増加し、不良債権比率は1.67%と前期比0.17%増加しました。

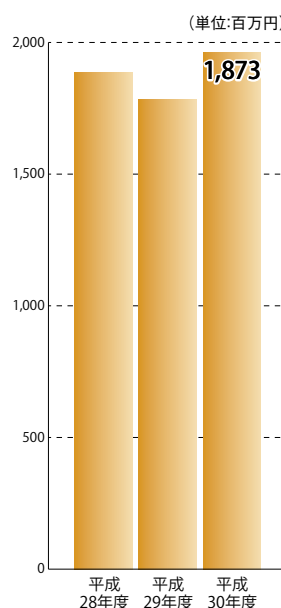
●預金積金残高の推移



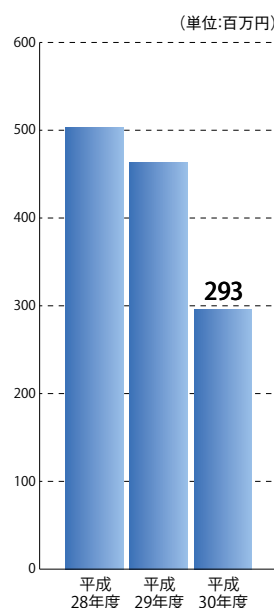
●貸出金残高の推移



●経常収益の推移



●経常利益の推移



事業の展望

令和元年度は新長期経営計画『きたしん「共創力」発揮3か年計画～地域と共に未来へ歩み続ける信用金庫を目指して～』の2年度として、1年度目から継続していく方策及び2年度目から新たに取り組む具体策を推進していきます。

主要勘定目標

〈預金〉

●期末残高
1,255億円

●期中平残
1,280億円

〈貸出金〉

●期末残高
648億円

●期中平残
637億円

〈経常利益〉

381百万円

〈当期純利益〉

240百万円

主要課題

(1) 支援力・営業力の深化×進化

- ・金融仲介機能の発揮～中小企業の企業価値の向上に向けた取組み
- ・ライフサポーター機能の発揮～お客様の生涯価値の向上に向けた取組み
- ・地方創生のプラットフォーム機能の発揮～地域価値の向上に向けた取組み
- ・独自性、特性、強みの発揮
- ・イメージアップに向けた取組み

(2) 経営力・内部態勢の深化×進化

- ・生産性・効率性の向上
- ・健全性の確保
- ・収益力の向上
- ・透明性の向上
- ・法令等遵守体制・顧客保護管理態勢の徹底
- ・リスク管理態勢の向上
- ・業務継続態勢の強化
- ・自店検査・臨店監査の向上

(3) 人材力・組織力の深化×進化

- ・人材の育成
- ・人材の確保
- ・「働き方改革」、「ダイバーシティ」の推進
- ・外部人材の有効活用

(4) 業界総合力の深化×進化

- ・地域活性化及び職員研修等の協働化
- ・事務等の共有化・共同化の促進